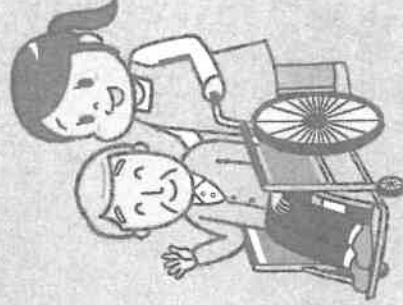


# 80歳で

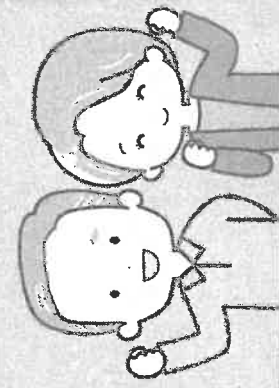
## 介護しだい、「800万円」から「3千万円」!?まで

# 「いくら残って

# いけば安心か?」



長寿化が進むにつれ老後資金への不安は募るばかり。先が長すぎるので「中間地点」を設けて、そこでの必要額を探ると、今度は新たに「介護」の準備が必要であることがわかった。介護費用を含めると、いったい80歳でいくらかあればいいのかが、さまざまなお見方を紹介しよう。



介護の費用は一切考慮されていない。若い世代の将来不安に火をつけた「老後資金2千万円問題」にしても同じ。毎月の生活費の赤字分、約5万5千円を30年分積み上げると約2千万円になるとするものだった。

心身に衰えが出てくる80歳以降は、生活費の足りない分に加えて介護の費用も考慮しなければならぬのだ。

それでは介護にはいくらかかるのか。しかし、これが一筋縄ではいかない。人によって介護の必要度合いが違ふし、どの程度の質を望むのかで費用が全然違ってくる。

生命保険文化センターが「全国平均」の数字(2021年度)を出している。それによると、住宅改造や介護用ベッドの購入などの「一時費用」に「74万円」かかり、実際の介護にかかる費用は「月額8・3万円」で介

護期間は「約5年1カ月(61・1月)」だった。すると介護にかかる総費用は次のようになる。  
74万円 + (8・3万円 × 61・1月) = 581・1万円

この数字を手がかりに介護費用を「1人800万円程度」と見込むのは、老後資金に詳しいFPの長尾義弘さんだ。

「これ以外に数年前に損保会社も同様の調査を行っており、両者を勘案して800万円としました。夫婦だと1600万円ですが、補い合ひので丸々この金額はかからないかもしれません。でも80歳で介護費用として1千万円は準備する必要があるのではないのでしょうか」

同じくFPの澤木明さんも「1千万円程度」を特論とするが、こちらは自身の介護体験がベースになっている。

「認知症も入った母親を約15年間介護したんです。最初は在宅で、症状が重くなつてからは特別養護老人ホーム(特養)に預けました」

### 調査や体験から「1千万円程度」

澤木さんが考えたモデルは、介護期間を10年として在宅と介護施設の期間を半々とするもの。在宅では徐々に症状が悪化するとし、費用も年々上がっていく。特養は待機期間が必要になることが多いため、最初は介護付き有料老人ホームに入り途中から特養に移る。

「母親の介護費用を参考に10年間の数字を積み上げていくと、1千万円程度になります。いろいろなセミナーでこの数字をお伝えしています」

1人800万円(1千万円)。冒頭のA子さんはい線をいつているが、在

言都園に住むA子さん(67)が言う。「80歳ですか? あまり考えたことないですね」夫は勤め先を退職し、すでに年金生活に入っている。Aさんは少しでも年金を増やしたいと、パートをしながら「年金繰り下げ」に挑戦中だ。年金収入で生活費を賄いたいのが繰り下げの動機というから、お金の計算は綿密に行うタイプだ。それでも、コロナ前は毎年行っていた海外旅行や孫への援助は貯蓄の取り崩しで対応している。「65歳でいくら」には関心がありましたが、80歳だと旅行やおいしいものを食べに行ったりもできなくなる年齢ですからねえ。1千万円くらいかとも思いますが、将来のことはわかりません」

率直で正直な意見だろう。「老後資金」というのが、現役の間にくらためられるか、その一点に焦点

が絞られる。しかし、ファイナンシャルプランナー(FP)の畠中雅子さんによると、60歳代の貯金がピークのときに判断ミスをする人が後を絶たないという。

「例えば、会社を退職してしばらくすると1千万円くらいかけて家をリフォームする人がいたりします。300万円くらいに抑えておけばいいのに、気が大きくなるのか使つてしまふんです。そして後になって、老後資金が足りないことに気づく」

逆に、しつかり準備してきた人の中には、「不安だらけで使つていいお金がわからない」と戸惑っている人がいたりする。人生100年、現役を終わてからの先は長い。だとすると「中間地点」を設定し、そこで「いくらかあればいいか」を知つておく必要があるのではないか。そこで考えたのが、今回のテーマだ。

今の高齢者の元気な姿を見ていると、70代の間はアクティブに活動できる人がどんどん増えていくだろう。お金は元金なうちに使つてこそ楽しい。80歳で安心できる金額を知ることは、元金なうちに使えるお金の知ることにもつながる。

では、どうすれば、その金額がわかるのか。老後資金だから、年金などの収入で生活費が賄えていけばよし、足りなければ赤字分に残りの年数を掛ければよい、と思われ

るだろうが、それでは半分正解にしかならない。「介護の費用が入りません。それをどう見るかで違つてきます」(先の畠中さん)

確かに、そうだ。元金なまま逃げればよいが、認知症や寝たきりになって「介護」が必要になる可能性が誰にもある。

実は、これまで語られてきた老後資金には、介